

# 培った知見と顧客への誠意、 太陽光発電と建築業という両輪で 顧客の暮らし全体を快適にする一助に

## COMPANY PROFILE

### 株式会社 太陽と大地

【本部】石川県金沢市窪3丁目379番地

【野々市営業所】石川県石川郡野々市市新庄5丁目65-1

URL : <http://www.seep-50sun.com>



『太陽と大地』では、太陽光発電システムの販売及びコンサルティングの他、修理、メンテナンス、太陽光パネルのリユース販売、各種申請代行など太陽光発電に関する幅広い事業を展開している。また、住宅リフォーム工事など建築業も行っており、顧客のより良い暮らしを包括的にサポートしている企業だ。本日は、同社の北村社長に俳優の斎藤洋介氏がお話を伺った。

#### 太陽光発電に未来を見出し 誠心誠意の仕事で励行すべく独立

——『太陽と大地』さんでは、太陽光発電関連の事業を幅広く手掛けておられると伺っています。早速ですが、北村社長のこれまでの歩みからお聞かせ下さい。

金沢市で生まれ育ちました。大学卒業後、住宅用建材を扱う会社に就職し、日々の業務の中で様々な経験を蓄積。それから今私が従事している太陽光発電の業界に移りまして、太陽光発電に関するコン

サルティング営業に就きました。訪問販売のスタイルだったので中には訝しむお客様もいらしたのですが、勤めていた会社は利潤を追求していた節がありました。やんわりお断りの意思を示しておられる方にも、強く勤めていくような営業をしなければならぬことに、長く勤める中で徐々に抵抗を感じるようになっていったのです。ただ、太陽光発電は人にも、環境にも有益な事業ですから、誠心誠意を念頭に励めば未来は明るいと、自身で手掛けることにしたのですよ。

——「顧客への誠意を大事にしたい」との思いから事業を興されたわけですね。長く経験を積まれての起業となりましたがスムーズに進みましたか。

ありがたいことに、人のご縁に恵まれました。私の自宅の隣で、長くリフォーム業を手掛けておられた方がいたのですが、ある日引退されるという話を聞きましてね。それなら、その場所を貸していただけませんかと相談すると快諾して下さい、事業をスタートできたのですよ。しかも、共に働いて下さるとのことで、私がアクセルなら、その方はブレーキを担って下さっており、パートナーとして非常に頼もしく思っています。

#### 顧客一人ひとりと真摯に向き合い 暮らし全体を快適にする一助に

——人への誠意を心がけて歩んでおられる社長だからこそ、周囲の人にも恵まれるのでしょうか。では改めて、御社の手掛ける業容をお聞かせ願えますか。

太陽光発電システムの取付や販売、修理、メンテナンスをはじめ、太陽光パネルのリユース販売、各種申請代行などを手掛けています。他にも、パートナーの力を借りて住宅リフォーム工事といった



#### After the Interview

「北村社長は一人ひとりの顧客にしっかり向き合っており、その人に最適な提案をされていたりします。太陽光発電のお仕事に長く従事されてこられましたし、その豊富な知識と経験は顧客からするととても頼もしいですね。顧客本位を念頭に日々のお仕事に勤しんでいらっしゃる社長ですから、この先もきっとたくさんの人たちの豊かな暮らしづくりに寄与されていかれることでしょう。陰ながらになりますが、社長の今後を応援させていただきます」



代表取締役社長

# 北村 修一

石川県金沢市出身。大学卒業後、住宅用建材を扱う会社就職してキャリアをスタート。その後、太陽光発電の業界へと移り、コンサルティング営業に就く。長く勤める中で幅広い知見を得た後、顧客への誠心誠意を軸にした仕事を励行すべく独立した。

建築業なども行っているのですよ。と言うのも、太陽光発電は電気代削減など家計におけるメリットがありますが、私はエネルギーという部分に留まらず、住まいを含めたお客様の「暮らし全体」を快適にする一助になりたいと思っています。そのため、皆様へ包括的なサポートを少しでも行うべく、垣根を越えた事業を展開しております。

——ワンストップサービスのよう形で、関わる顧客の豊かな毎日を支えていらっしゃるわけだ。ところで社長は、お仕事においてどういったことを意識されていますか。

顧客本位です。まず、ご要望や予算などを細かくヒアリングさせていただき、お一人おひとりに最適な太陽光発電のご提案をさせていただいています。また、太陽光発電は先ほど話した電気代削減の他にもたくさんの利点がありますが、良い面ばかりではなく、お客様の事情や住まいの状況に応じてデメリットもしっかりお伝えしております。本当に得する太陽光発電の暮らしをお客様と共に見つけ、実現するために全力を尽くしますので、何かあれば気軽にご相談いただきたいですね。

——起業に際して抱いた誠心誠意を軸に

日々勤しんでおられるようですね。そんな社長の原動力となっているのは、何なのでしょう。

お客様への誠意はもちろんですが、「まだまだいける」と自分を鼓舞する気概ですかね。昔働いていた会社の同僚は、「仕事はやる気、根気、負けん気」と言っていたも励んでおりました。それに、一緒に歩んでいるパートナーは現在76歳なのですが、年齢を感じさせないほど英気が充溢しており、日々の仕事に臨んでおられます。

そんなパートナーに限らず、全国的に見ればそういった逞しい諸先輩方は多くいらっしゃるでしょう。ですから、若輩者である私が先にリタイアするわけにはいきませんし、すぐ側に刺激をくれる

パートナーがいますので、まだまだいけると走り続けている次第です。

——年長者への敬意を忘れず、その存在を励みに邁進されているようですね。さて、お話は尽きませんが、最後に今後の展望をお聞かせ願えますか。

私とパートナーが今まで培ってきた知見や仕事観を継承できる、人材の確保・育成に注力していきたいと考えています。たとえば、ベテランと若手がコンビを組んで動けば、実践形式で技術や仕事に懸ける思いの部分も継承していけるのでは、という構想がありますね。そうして心技共に洗練された人材を育てて、いずれは適性のある人に事業承継をしたいと思っています。

(取材／2018年2月)

## Column

北村社長が考える人材育成方法は、ベテランと若手が師弟コンビを組むというものだ。師匠に比べて、俊敏性や体力など身体面で勝る弟子は現場作業を積極的に進めて、師匠は豊富な知見を活かして弟子が手掛けた仕事の粗を直し、精確な技と知識を必要に応じて都度教えていく。

超高齢社会の日本において、社長の描く人材育成方法が多様な業界で普及すれば全体的に、高齢者の長期雇用及び、次代への技術継承も実現できることだろう。それに、この育成方法だと師匠と弟子双方の間で徐々に信頼関係が醸成されていく。そしてその絆は、阿吽の呼吸へとつながり、仕事を円滑に進めていく要因になることは間違いない。加えて、その育成方法を毎年一組ずつでも続けていくことで、気付けば一つひとつの絆が集まって固い結束力となり、社のさらなる飛躍につながる可能性へと昇華するはずだ。

テクノロジーが加速度的に発展し、先行きが見通しづらい現代だが、仕事の本質は一人と一人だ。社長の育成方法は、日本経済を活気づける起爆剤になる可能性を秘めているだろう。